

県庁舎中庭発電機室解体工事 特記仕様書

I、工事概要

- 1, 工事場所
- 青森県長島一丁目地内
- 2, 敷地面積
- 14,772.04㎡
- 3, 建物概要

建物名称	構 造	階 数	建築基準法による 延べ面積 (㎡)	区 分	備 考
電 気 室	鉄筋コンクリート造	1階	383.60	取りこわし1棟	

- 4, 工事種目
- 電気室 機械設備 取りこわし一式

II、工事仕様

1、共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）」（以下「解体共通仕様書」という。）により、解体共通仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）令和7年版）」（以下「改修工事標準仕様書」という。）及び国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課制定の「公共建築設備標準図（機械設備工事編）令和7年版）」（以下「標準図」という。）による

2、特記仕様

（1）一般共通事項 （●印のものを適用する。）

●官公署への手続き等 工事の着手、施工にあたり、関係官公署その他の関係機関への必要な手続き等を遅延なく行う。

- 貯油槽
- 廃止届けとする。
- ボイラー
- 廃止届けとする。
- 給水装置
- 廃止届けとする。
- 浄化槽
- 廃止届けとする。
- 排水設備
- 廃止届けとする。
- 昇降機
- 廃止届けとする。
- 都市ガス設備
- 廃止届けとする。

○廃酸・廃アルカリ処理 吸収冷凍機、吸収冷水機等の撤去前に臭化リチウム水溶液の抜き取りを行う。ただし、抜き取り費用は（○本工事 ○別途）とする。

○ダイオキシン類調査 焼却炉等の撤去前に残灰よりサンプリング調査を行い、監督職員に報告する。ただし、サンプリング費用は（○本工事 ○別途）とする。

○廃油処理 オイルタンク、サーピスタック、油配管等は撤去前に内部清掃を行う。ただし、内部清掃、洗浄油の回収費用は（○本工事 ○別途）とする。

○冷媒（フロン類）の回収 冷凍機、パッケージ形空調機等の撤去に伴う冷媒回収方法は、改修標準仕様書第3編2、4、3により適切に行うこと。

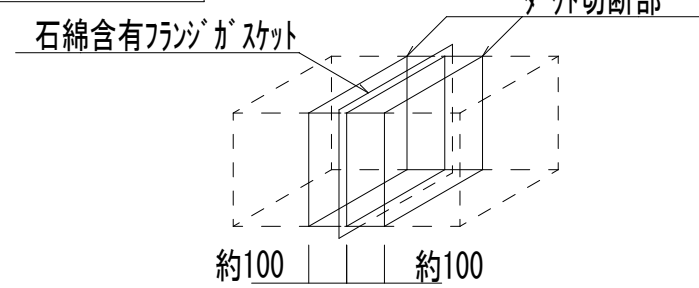
ただし、家電リサイクル対象機器は除く。 冷媒回収の費用は（○本工事 ○別途）とする。

○家電リサイクル 対象機器は、 とする。なお、冷媒回収はポンプダウン方式とする。（リサイクル料金は本工事とする。）

○汚泥・汚水処理 浄化槽及び排水槽内は汚泥・汚水を汲み取り、内部清掃を行う。ただし、汚泥・汚水・清掃洗浄水の回収費は（○本工事 ○別途）とする。

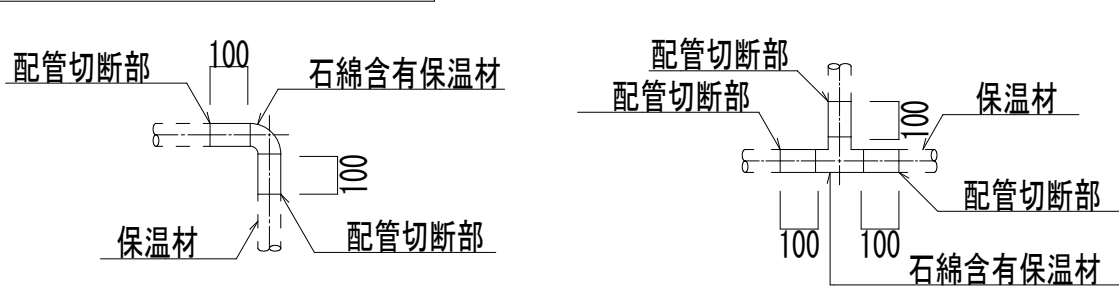
○アスベスト含有製品処理 ○ 本工事
ダクトフランジパッキン及び配管エルボ部保温材の処理方法は、以下による。
撤去する長方形ダクトのフランジ部、配管のエルボ・チーズ部に含まれる石綿を処分するため、フランジ・エルボ・チーズの前後を切断し、他のダクト・配管とは別に廃棄を行う。

ダクトフランジ部撤去参考詳細図



1. ダクトの切断に当たり飛散防止処置として、フランジ部を飛散抑制剤の塗布又はテープ貼りを行う。
2. フランジ部両側約100mmの箇所において慎重に切断する。
3. ダクト片側の切断終了後、フランジ部内部を外面同様、飛散防止処置として飛散抑制剤の塗布又はテープ貼を行い、もう片側の切断を行う。
4. 切断したフランジ付ダクトは、ビニール袋等に詰め、構外搬出適切処理とする。

配管エルボ・チーズ部撤去参考詳細図



1. 配管の切断に当たり飛散防止処置として、保温材部を飛散抑制剤の塗布又はテープ貼を行う。
2. 保温材部両側約100mmの箇所において慎重に切断する。
3. 切断した保温付配管は、ビニール袋等に詰め、構外搬出適切処理とする。

● 配管種別（既設配管）

	配管種別	配 管 材 料
空気調和	○ 冷水水、冷却水	○ 配管用炭素鋼鋼管（白）
	○ ドレン管	○ 硬質塩化ビニル管（VP） ○ 配管用炭素鋼鋼管（白）
	○ 油	○ 配管用炭素鋼鋼管（黒）
	○ 蒸気	○ 配管用炭素鋼鋼管（黒） ○ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒）
	○ 冷媒管	○ 冷媒用被覆鋼管
給水	● 屋内給水管	○ 水道用亜鉛メッキ鋼管 ● 塩ビライニング鋼管 ○ ポリエチレン粉体ライニング鋼管
	● 屋外給水管	● 水道用硬質塩化ビニル管（VW） ○ ポリエチレン管 ○ 塩ビライニング鋼管（VD）
給湯	○ 給湯管	○ 配管用炭素鋼鋼管（白） ○ 鋼管
排水	○ 污水管	○ 排水用鑄鉄管 ○ 塩ビライニング鋼管 ○ 鉛管
	● 雑排水管	○ 配管用炭素鋼鋼管（白） ● 塩ビライニング鋼管
	○ 通気管	○ 配管用炭素鋼鋼管（白）
	● 屋外排水管	○ コンクリート管 ● ビニル管（VP）
ガス	○ 屋内ガス管	○ 配管用炭素鋼鋼管（白）
	○ 屋外ガス管	○ ガス用ポリエチレン管 ○ 配管用炭素鋼鋼管（白）

- ダクト種別 ○ 垂鉛鉄板 ● 鋼板製
- 保温種別 ○ ロックウール保温材 ● グラスウール保温材 ○ ポリスチレンフォーム保温材 ○ 化粧ケース（樹脂製）
- 衛生器具 ● 陶器製 ○ SUS製

III. 取りこわし内容

（1）共通

- 図示された、機器・ダクト・配管の取りこわしを行う。
- コンクリート埋設部及び土間部の配管は建物と一体に取りこわしてもよい。
- ダクト付属品・配管付属品は、ダクト・配管と一体で取りこわしてよい。
- オイルタンク ○ オイルタンク本体は、掘り起こし撤去とする。
○ オイルタンクの用途廃止に係る安全管理指針に基づき撤去する。
○ オイルタンク掘り起こし後は、現場発生土にて埋め戻しとする。
- 浄化槽 ○ 浄化槽掘り起こしに伴う掘削工法は、法付け工法とする。
○ 浄化槽掘り起こし後は、現場発生土にて埋め戻しとする。
- 配管土工事は本工事とし、掘り起こし後は現場発生土で埋め戻しとする。
- 屋外給水配管の埋設深さは600Hとする。
- 屋外ガス配管の埋設深さは600Hとする。
- 樹掘り起こし後は現場発生土で埋め戻しとする。
- 給水装置 ● 図示による
- 給水装置 ● 図示による
- 都市ガス設備 ○ 本管にて閉栓とする。 ○ 敷地内第1弁を閉としプラグ止めの上、埋設標示杭設置とする。

建物概要

工事場所	青森市長島1丁目1-1			
用途地域	商業地域(容積率600% 建蔽率80%)			
防火地域	防火地域			
主要用途	発電気室（倉庫）			
構 造	鉄骨造平家建 耐火構造			
敷地面積	14,772.04 m ²			
建築面積	新築 383.6 m ²	既存建物 7,130.83 m ²	計	7,514.43 m ²
建ぺい率	14,772.04 x 0.8 = 11,817.63 > 7514.43 OK			
延床面積	解体部分 383.6 m ²	既存建物 36,401.3 m ²	計	36,784.9 m ²
B1F		3,988.83 m ²		
1F	383.6 m ²	6,074.1 m ²		
2F		5,174.47 m ²		
3F		5,075.9 m ²		
4F		4,430.51 m ²		
5F		4,363.61 m ²		
6F		4,802.79 m ²		
7F		1,070.7 m ²		
8F		1,069.57 m ²		
9F		293.62 m ²		
PH1F		57.2 m ²		
容 積 率	14,772.04 x 6 = 88,632.24 > 36,784.90 OK			

